

【技術・家庭科実践例①】

技術分野 黒沼 和幸

- 1 題材 「自分の部屋（家）で役立つ木製品をつくろう」（2年）
- 2 目標 自分の実際の生活から問題点を見だし、解決するための木製品について根拠をもって製作することができる。
- 3 研究主題とのかかわり
視点① 生徒の実生活に根差した必要感のある課題設定
視点② 課題意識、製作目的意識を明確にした学習活動
- 4 指導計画
(1) 材料の特性と加工方法について知る。
(2) 丈夫な製品をつくる方法について知る。
(3) 自分の生活を見つめ問題点を見だし、解決するための課題（木製品）を考える。
(4) 設定した課題（木製品）を製作するための設計をし、作業手順を考えて製作する。
(5) 製作過程や完成した作品を評価し、改善・修正する。
- 5 成果と課題
○課題を自分事として捉える事ができるように、日常生活や授業での内容を使用したので生徒は自分の生活でのイメージをして捉えやすく、思考しやすかったように思う。
○タブレットや電子黒板を活用し、作業前に動画を見せることで視覚的に捉えることができ、作業技術の向上が見られた。
○話し合いや相談をしながら、自分の課題設定や製作作業に向き合っていたと感じる。
△課題設定の場面で、自分の生活の中から具体的な問題点を見いだせない生徒やつまづいてしまう生徒が数名見られ、その後の製作作業の意欲にもつながっていた。より丁寧な課題設定の授業を考え、工夫していく必要があると感じた。

【技術・家庭科実践例②】

家庭分野 佐藤 嘉子

- 1 題材 「食品の選択をしよう」（2年）
- 2 目標 自分の考えが相手にわかりやすく伝わるように根拠を持って、必要な食品を選択できるようにしていく。
- 3 研究主題とのかかわり
視点① 生徒の実生活に根差した必要感のある課題設定
視点② 課題意識、製作目的意識を明確にした学習活動
- 3 指導計画
(1) 生鮮食品や加工食品の特徴について知る。
(2) 生鮮食品や加工食品の表示を調べる。
(3) 食品の選択や保存方法などについて知る。
(4) 食品を選択し、わかりやすく具体的に理由をグループで発表し、他の人の意見に触れ視野を広げ食品を選択するときの視点を広げ生活に生かしていく。
- 4 成果と課題
○具体的な場面を示すことで自分の事と重ねながら食品を選んでいくことができていた。
○自分の選択の理由を深く考えることで、なぜそう考えたのかをいつもよりも意識できた生徒が多くいた。また、グループで意見を交流することで、自分や自分の家庭と違った考え方を知る機会になった生徒が多くいた。
△選択する食品の数が限られてしまうことや実際に買い物をしている生徒が少なく、簡単な言葉で理由を考えてしまう生徒がいたので、今回の授業から買い物やさまざまな食品について考えさせることが必要だと感じた。